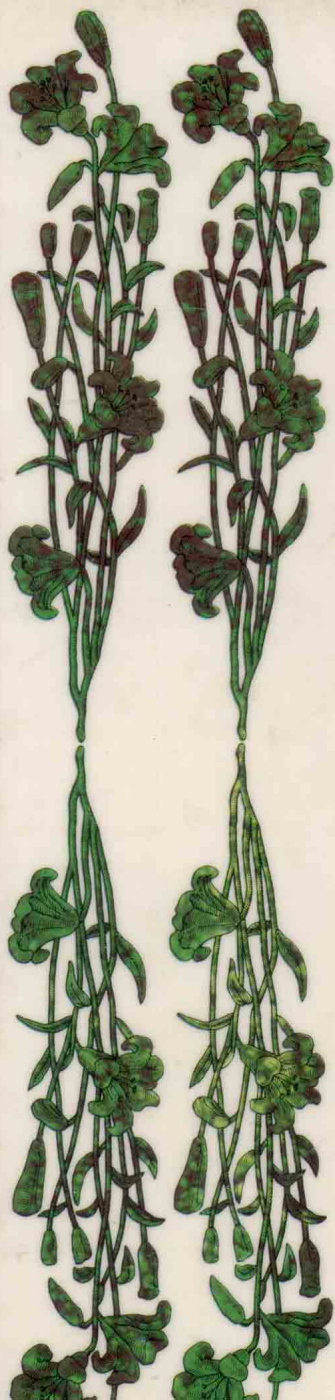


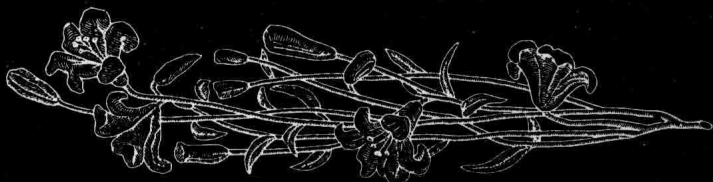
うぬぼれ鏡

萩原葉子



うぬぼれ鏡

萩原葉子



大和書房

萩原葉子（はぎわらようこ）

1920年 東京に生まれる。精華女学校卒業。

1959年 『父・萩原朔太郎』でエッセイスト
クラブ賞受賞。

1966年 『天上の花』で田村俊子賞・新潮社
文学賞受賞。

1976年発表の自伝的小説『幕麻の家』は大きな
話題をよびその年の女流文学賞受賞。

他に小説集『東の間の午後』『花笑み』、エッ
セイ集『かえり花』（大和書房）『女と冒険』
『望遠鏡』『セビリアの驢馬』など。

うぬぼれ鏡

著 者 萩 原 葉 子

発行者 大 和 岩 雄

発行所 ^{だい} ^わ 大 和 書 房

東京都文京区関口1-33

振替東京 6-64227

電話 (203) 4511

郵便番号 112

印刷・信毎書籍印刷 製本・東京美術紙工

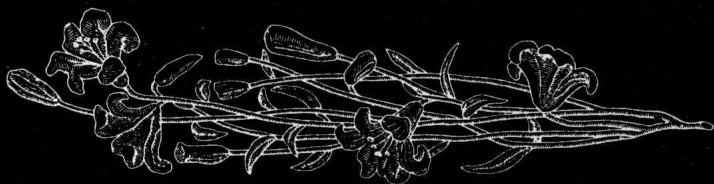
落丁本・乱丁本はお取替えます<換印略>

発行年月日はカバーに表示してあります

0012-000890-4406

うぬぼれ鏡

萩原葉子



大和書房

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

目次

女の目十二章

女の目……………	三
ねこと女……………	七
月下美人……………	二
L型サイズ……………	六
クラス会……………	三
アパート……………	五
女とメガネ……………	九

女とハイヒール	四
女と電車	四
女と宣伝	三
白髪や若い娘のこと	七
装い	六

郷 愁

たばこ	六
時計	六
足音	三
アレキサンドリヤと筋子の糟漬	三
せんなりほうずき	二
賽の河原	四
うぬぼれ鏡	
うぬぼれ鏡	八
せんとう	九

目 次

早口	九五
顔	一〇〇
アロエ	一〇四
手編み	一〇七
鉛筆削り器	一一〇
文鎮	一一三
スローモーション	一一五
けしごむ	一二八
季節の終りに思うこと	
風呂桶	一二四
座席	一二七
友達	一三〇
筆不精	一三四
お葬式	一三八
三好達治氏と私	一四四

腹立ち

銀行……………一四

水……………一三

不親切時代……………一五

タクシー……………一五

くじらとふぐ

女とデパート……………一六

郵便秤り……………一六

制服……………一七

ギターの手習い……………一七

くじらとふぐ……………一七

蜜柑……………一八

時計……………一八

女と旅行……………一八

旅先の料理……………一八

奇縁……………	一九五
---------	-----

生きものの記

糸みみず……………	一九六
こじゆけい……………	二〇二
カケス……………	二〇八
神社にて……………	二二三

*

父の思い出

二重廻し……………	二二六
父の遺品……………	二三三
父の手紙……………	二三六
父と写真……………	二三〇
たばこと声……………	二三四
女学生のころ……………	二五九

手紙.....	二四三
あながき.....	二四八
新装版への「あながき」の「あながき」.....	二五〇

女の目十二章

女の目

男性が長い足をもて余したように組んで、タバコを喫^すっているポーズは、よいものだ。長い足の人、手も長いので、すんなりのびた腕を肘掛椅子^{ひじかけいす}にもたせ、タバコの煙をくゆらせるとき、美しい魅力を発揮する。女性がどんなに上手にタバコを喫^すっても、かなうものではなく、男性だけの独壇場である。

額にしわを寄せ、煙が目^めに沁^{しみ}みて痛いような顔をしているのもよく、煙の向うでしきりに思案しているような思わしげなポーズも素晴らしい。こんなとき、組ませた足と上体、タバコを持った手とは、一直線上に繋^{つな}がってくの字になっていると、いっそう見栄えがする。くの字に全身が傾くと、どこか病身を思わせる繊細な感じになるので、私の好きな男性のタイプになるからであらう。

繊細で痩^やせ型の男性は、近頃の映画俳優には流行しないらしく、現代の青年はみな健康

的である。アラン・ドロンやアンソニー・パーキンスにしても影のない明るさが身上だ。私は、健康優良児的な男性よりも、どこかひ弱く、それでいて明るい性格の人に魅力を感じてしまう。

残念ながら男優では見当たらないが、ジャンヌ・モローやシモーヌ・シニョレのような、人生の悲しみを深く噛みしめ、あまりおおくを語らないという人が好きである。

せっかく火を点けたタバコを一服するまもなく、しゃべり続けでは幻滅だ。おしゃべりの過ぎるのは、女性の夢を壊してしまうものだが、そうかといって黙り込んでいられるとおさら閉口する。やはり啞えたタバコをゆっくりくゆらせながら、煙の向うで味のある言葉をぼつり、ぼつりと語るのが頃合ではないだろうか。

このような味のでてくるのはやはり中年以上で、若い男性に希んでも無理であろう。青年は、天衣無縫ともいえる潑刺さが、なにより魅力である。あり余ったエネルギーは手足を大きく躍動させ、その動きがまた若さと呼ぶ。若いということはなんと素晴らしいものかと、嘆息も思わずでる。ときには乱暴とも思えるような荒っぽい動作や、会話のやりとりさえ、若者の魅力をいっそう快よく受けとらせる。

青年はよく唇にタバコを啞えたまま、火を点けようとするまの数秒に、なにかを話すことがあるが、白く揃った歯との調和でひととき健康な美しさを見せてくれる。

アラン・ドロンもよくタバコを喫み、ポーズも美しいが、美男はタバコを喫むことでいっそう魅力的になって女心を惹きつける。

不思議なことに若者が喫むタバコは、いかにも清潔で若々しいものに思えるのに、年輩者の喫うタバコは静かで奥ふかいものと思えることだ。ふと考え込むようなポーズで持ったタバコを、髪のアたりに持ってゆき、煙が髪の中へはいってゆくような、煙の動きに目を止めることがあるが、こんな時、長めの髪はよいものだと思う。ポマードをあまりつけない長めの髪は青年や年輩にでもよく似合うもので、煙の流れとの調子もとれて美しい。戦前は文学青年や画家が、オールバックで衿足まで延ばした不潔な長髪を垂らしていたものだが、あれはどうみても頂けない。一時流行した慎太郎刈りとかいって、短く刈り込むのも個性がなく、誰も彼もみな同じ顔に見えてしまうのは惜しい。なんとなく呉服屋の主人を思わせるもので、商人ふうになってしまう。

水原弘のような顔には比較的似合っているものの「黒い花びら」等唄うとき、もし長めの髪ならばもっと効果が上るのに違いないと思う。彼のような悩ましい目で、タバコの煙を髪にくゆらせながら、喫茶店の片隅に坐っているポーズは、ファン等沸かせるに充分である。

一時、ユール・ブリンナーの坊主頭が魅力的だといわれたときがあったが、悪趣味もひ